

アサヒひだまり2月1泊キャンプの感想

K・I(中学生、高校生保護者 2026年2月記す)

ひだまり2月キャンプ、受付開始(駐車場付近での白(しろ:活動年度:2022~2025年度)の待機もすごくやさしくて、心癒されます)から、子どもの受け入れから、和やかな雰囲気には保護者も落ち着きます。学生さんも、子どもたちも再会を喜びます。やさしい文(あや:2023年度~)との会話では過去のキャンプの振り返りや子どもの成長について話して、継続の重要性を感じます。他のお子さんたちの回を重ねるごとに表情が和らいで、学生さんも慣れて楽しんでいる様子を見ながら保護者の方々とおしゃべりします。おしゃべりばかりしているようですが、考えがスッキリとまとまったり、再認識できたり、方向性を確認できたりします。

ひだまり2月キャンプ、兄は参加できたものの、弟が体調不良で欠席。仕方ないと思うものの、楽しみにしていた分、子どもも保護者も、ショックが大きいです。しかしキャンプに参加して得る経験、参加できずに次に参加できた時に味わう健康のありがたさ、アサヒキャンプでの経験もさらに大切なものであると実感できます。そして、叶えられなかった思いが子どもの成長する姿へとつながります。子ども自身も、円堂(2022~2025年度)やサー太(2025年度~)と何か話した? DVDで見れる? と話しかけてくれます。

今回のひだまりキャンプの感想としてはやはり、パパ役メリー(2024年度~)とママ役ひばり(2024年度~)の日頃からの人柄、落ち着き、安定感、思いやり、やさしさにあふれた愛あるキャンプだったと思います。卒業する大学4年生、前に出て活躍する2年生、それを支える3年生。この感動の卒業セレモニーはきっと1年生、子どもたち、保護者に多くのものを残してくれたと思います。

子どもたち、保護者、学生さんみんなヨッシー(2024年度~)を頼りにしています。マイスペースに行くと「遊ぶぞー」と言ってくれます。かけ声に背中を押してもらえます。楽しんでほしいと送り出します。ヨッシーは言葉がやさしいです。キャンプ後の手紙がやさしいです。圧倒的なパフォーマンス、判断力、行動力で後輩を育て、アサヒキャンプ全体を動かしていきます。春は四年生の学生さんが卒業するため、子どもたちも保護者もさみしい気持ちになります。別れを何度か繰り返すうちに、いつも感謝を伝えたり、その時間を楽しむようになります。

そして、そのさみしさを埋めるように今の学生さんたちが活躍してくれます。10月のひだまりキャンプから参加のお軍(2025年度~)も、ヨッシーのおかげで、アサヒキャンプを楽しむことができていると感じます。そうやってアサヒキャンプが受け継がれていくこと、保護者としてうれしいです。

気づき、学び、仲間がいることで、キャンプの見る目、考え方も深まります。

いつもありがとうございます。